

# 会 議 録 要 旨

会 議 名		平成28年度 第8回藤沢市下水道運営審議会
開 催 日 時		2017年(平成29年)2月6日(月)午前10時00分～午後0時02分
開 催 場 所		藤沢商工会館ミナパーク502会議室
		傍聴者数 0人
出席者	会 長	神田 務
	委 員	菊田 稔・川田 兼子・木村 安代・齋藤 力良 永島 柳子・大岩 英一・須田 千亜希・布川 晃
	事 務 局	田代部長 土木計画課：鈴木参事・平本補佐・小野寺・小川・村田・金子・吉原・三澤 下水道整備課：張ヶ谷課長・毛利補佐 下水道施設課：浅場参事・真間主幹 浅井辻堂浄化センター長・中丸補佐 加藤大清水浄化センター長・一ノ瀬補佐 土木維持課：北村参事・平田主幹・鈴木専任補佐 下水道業務課：広田参事・齋藤主幹・山本補佐
議題及び公開・非公開の別		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会資本総合整備計画の事後評価について</li> <li>2 今後の下水道事業運営について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 下水道使用料の改定について</li> <li>(2) アセットマネジメントについて</li> </ol> </li> <li>3 その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議について</li> <li>(2) 平成28年度下水道作品コンクールの結果について(県下水道公社主催)</li> <li>(3) 平成29年度藤沢市下水道運営審議会日程について</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">(すべて公開)</p>
非公開の理由		
審議等の概要		<p>○審議の前に、前回審議会の質疑について回答。 第7回審議会会議録要旨⑥(配布した参考資料をもとに説明) 流動負債に、1年以内に償還する企業債の額を足すと平成23年度が54.9%、24年度が51.9%、25年度が45.3%となります。流動比率が減少しておりますが、これは現金預金の減少などによるものです。</p> <p>《議題》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会資本総合整備計画の事後評価について 社会資本整備総合交付金事業及び事後評価書について説明。</li> </ol> <p>【質疑】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①配られた訂正の資料1-2には①から⑧までであるが、②人口普及率が抜けているが、この部分はミスなのか。 《回答》平成23年度にスタートした社会資本総合整備計画から、25年度に防災・安全交付事業が分かれて2つになりました。②の人口普及率は防災・安全交付事業の指標とならないため記載がありません。</li> <li>②床上浸水被害対策率について、「浸水対策の実施により解消される家屋数」というのは、時間あたり何ミリまでの降雨に対応できるということなのか。 《回答》平成15、16年度の被害をもとに設定をしまして、この当時の計画整備水準としておおむね時間あたり60ミリとしております。</li> <li>③5年間での効果が、32戸から34戸へと2戸分しかない。14億円ほどかけての効果として少ないのではないのか。 《回答》数字上、2戸と若干少なく見えますが、道路など広い面積で冠水する地域のため重点地区としておりました。この事業の効果自身が合流改善という汚濁の軽減も兼ね合わせた事業であるため、効果的なものだと捉えております。</li> <li>④床上浸水被害対策率について、平成15、16年度の床上浸水の実績で242戸とのことだが、それ以前は被害がなかったのか。また、そういう指標はなかったのか。 《回答》ここ数年、河川事業による改良が行われ洪水被害は減ってきた反面、平成15、16年度の台風による内水被害が顕著にみえたことから、過去で一番被害が多かった戸数を目標指標の対象といたしました。</li> </ol>

<p>審議等の概要</p>	<p>⑤床上浸水被害対策で整備した鶴沼東部地区の6,000トンの貯留管の使用頻度はどのくらいなのか。例えば、何ミリの雨で入る設計をしているのか。 《回答》おおむね10ミリを想定して貯留管へ入る設定をしております。また、浸水対応時は、時間あたり30ミリの設定をしております。</p> <p>⑥合流式下水道の改善率は、合流地区から直接未処理の下水が流れるその負荷量を分流式並みにした量か。 《回答》はい。分流式並みに抑える量として、年間で80.5トンに対策量としております。</p> <p>⑦対策済み汚濁負荷量とは、計算上のものか。それとも実績値なのか。 《回答》合流区域全体での負荷量を算出するにあたり、モニタリング等を行い計画値を定めております。また、事業終了後もモニタリングを実施し、事後評価を行います。</p> <p>⑧汚濁負荷量として(t/年)とありますが、これはBODですか。 《回答》はい。年間あたり積み重なったものとして(t/年)といたしました。</p> <p>⑨下水道処理人口普及率が95.4%とあるが、残りの4%とはどんな状況なのか。 《回答》市街化調整区域の中の未普及の区域です。浄化槽の設置促進を行い、平成42年度までには普及率100%を目標としております。</p> <p>⑩浄化槽でやった場合でも、下水道普及率にカウントできるのか。 《回答》下水道普及率には、浄化槽による生活排水の処理率は含まれません。合併処理浄化槽を含めると、処理人口の普及率は96.1%となります。</p> <p>⑪事後評価書について、市民に対する公表の仕方をどのように考えているのか。 《回答》事後評価書とともに、補足として本日の配布資料(パワーポイント資料)も公表をしたいと考えております。</p> <p>⑫地震や津波が起きた時の対策として、どのようなことをするのか。 《回答》地震等被災時の下水道利用の状態という話だと、BCP、業務継続計画を策定して対処しようと考えております。</p> <p>⑬BCPの意味を教えてください。 《回答》Business Continuity Plan(業務継続計画)の略称でBCPとなり、災害時に業務を継続させるための職員配置や体制などを網羅させた計画のことです。</p> <p>2 今後の下水道事業運営について  (1) 下水道使用料の改定について  (2) アセットマネジメントについて  一括で説明。</p> <p><b>【質疑】</b>  ⑭資料2「下水道使用料改定のお知らせ」の各戸配布は始まっているのか。また、組織改正後の問い合わせ先の周知はどうしているのか。  《回答》配布はまだしておらず、3月末までには終わるよう進めています。問い合わせ先については、チラシやホームページなどでできるだけわかりやすく対応をしていきます。</p> <p>⑮アセットマネジメントについて、抽象的な記述が多いので、具体的に進めていったらどうか。  《回答》現段階では、抽象的な内容でお示ししていますが、来年度考えております戦略等の中で具体的にしたいと考えております。</p> <p><b>【提案】</b>アセットマネジメントを市民の方にも理解していただくには、数値的なものをいれて効果がみえるようにしないと理解いただけないと思うので、検討いただきたい。</p> <p>3 その他  (1) 合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議について  合流式下水道緊急改善事業計画の策定にあたり、当審議会をアドバイザー会議と兼ねて開催する予定と説明。  (2) 平成28年度下水道作品コンクールの結果について  神奈川県下水道公社主催の下水道作品コンクールの結果について報告。  (3) 平成29年度藤沢市下水道運営審議会日程について  平成29年度藤沢市下水道運営審議会の日程について説明。</p>
<p>その他</p>	